

2019(平成 31)年度

大学院学生募集要項

博士前期課程  
(7月入試)

青山学院大学  
大学院理工学研究科

理工学研究科及び入学試験情報の概要は、  
青山学院大学の公式ホームページ (<http://www.aoyama.ac.jp/>) で紹介しています。

## 青山学院教育方針

青山学院の教育は  
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、  
神の前に真実に生き  
真理を謙虚に追求し  
愛と奉仕の精神をもって  
すべての人と社会とに対する責任を  
進んで果たす人間の形成を目的とする。

## 青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、神と人  
とに仕え社会に貢献する「地の塩、世の光」としての教育研究  
共同体である。

本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって自ら  
問題を発見し解決する知恵と力をもつ人材を育成する。それは、  
人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。

本学のすべての教員、職員、学生は、相互の人格を尊重し、  
建学以来の伝統を重んじつつ、おのこの立場において、時代  
の要請に応えうる大学の創出に努める。

### 個人情報の取り扱いについて

出願に際してお知らせいただいた住所、氏名、生年月日等の個人情報は、  
①願書受付、②入学試験実施、③合格発表、④入学手続きとこれに付随す  
る業務を行うために利用します。

## 2019年度入学試験の実施時期について

○印は入学試験を実施するコースです。

理工学研究科 理工学専攻	博士前期課程	
	7月入試 (注1)	9月入試 (注2)
基礎科学コース	○	○
化学コース	○	○
機能物質創成コース	○	○
生命科学コース	○	○
電気電子工学コース	○	○
機械創造コース	○	○
知能情報コース	○	○
マネジメントテクノロジーコース	○	○

この要項は7月入試に関するものです。

**本学理工学部**に在籍する全ての学生は、7月入試を受験することはできません。

受験希望者は、出願資格を有する方なら7月入試、9月入試のどちらも受験が可能です。  
また、両方とも受験することもできます。詳細は次ページ以降をご覧ください。

(注1) 7月入試は、「小論文」および「口述試問（書類審査を含む）」による選考です。

(注2) 9月入試は、共通科目 [「英語」および「数学」] と専門科目 [「筆記試験」および「口述試問（書類審査を含む）」] による選考です。

9月入試は、別個の学生募集要項がありますのでそれを参照してください。

## アドミッションポリシー

### 《博士前期課程・修士課程》

本学大学院博士前期課程・修士課程では、各専攻が求める人材を、さまざまな形式の入学試験を通して以下の能力等に照らして受け入れる。

- ・当該専攻の研究に必要な専門知識・専門技能
- ・課題に対して論理的に思考、判断し、自身の考えを的確に口頭で、かつ文章によって表現する能力
- ・本大学院の特徴を理解し、大学院における学びを追求し、社会のために還元する意欲・関心・態度

### 《理工学研究科》

#### 【基礎科学コース】

##### ①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、物理科学または数理サイエンスを学び研究するための基礎学力がある。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

##### ②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

##### ③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、物理学・数学に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

#### 【化学コース】

##### ①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、化学の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

##### ②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

##### ③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、化学および科学技術と社会との関係に興味があり、専門知

識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

#### 【機能物質創成コース】

##### ①知識・技能

- ・ 専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、材料科学の基礎が理解できる。
- ・ 複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

##### ②思考力・判断力・表現力

- ・ 大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

##### ③意欲・関心・態度

- ・ コースの特徴を理解した上で、材料科学に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

#### 【生命科学コース】

##### ①知識・技能

- ・ 専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、生物学、分子生物学、生化学、生物物理学、生命情報科学、生体分析化学などの基礎が理解できる。
- ・ 複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

##### ②思考力・判断力・表現力

- ・ 大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

##### ③意欲・関心・態度

- ・ コースの特徴を理解した上で、生命科学に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

#### 【電気電子工学コース】

##### ①知識・技能

- ・ 専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、電気電子工学の基礎が理解できる。
- ・ 複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

##### ②思考力・判断力・表現力

- ・ 大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、電気電子工学及び関連分野に興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【機械創造コース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、機械工学の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、ものづくりに興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【知能情報コース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、情報テクノロジー関連分野の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、情報テクノロジーに興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

【マネジメントテクノロジーコース】

①知識・技能

- ・専門フロンティアプログラムでは、専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、専門科目などについて内容を理解し、大学卒業相当の知識を有し、経営システム工学の基礎が理解できる。
- ・複合フロンティアプログラムでは、幅広く専門知識を身に付けるための基礎学力および大学卒業相当の外国語の知識がある。

②思考力・判断力・表現力

- ・大学卒業相当のレベルで、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現し、伝えることができる。

③意欲・関心・態度

- ・コースの特徴を理解した上で、マネジメントテクノロジーに興味があり、専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲があり、興味を持っている。

理工学研究科および各専攻の教育研究上の目的・カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーは、以下の本学ウェブサイトにてご確認ください。

[http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate\\_science/](http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_science/)

## 青山学院大学大学院理工学研究科 教育研究上の目的

### 人材養成上の目的

人類世界の存続と、更なる発展を可能とするために、豊かな自然環境の保全と平和で活力ある社会環境の創生が求められている。これらの理想を実現するためには理学と工学に基礎を置いた“科学・技術”の革新と展開が不可欠である。このような社会的要請に応えうる人材は、関連する専門分野における確たる基礎力の上に築かれた深い洞察力と高い実行力を有するだけでなく、その周辺の学問分野も含めて広く人類社会を俯瞰する視野と自然環境に対する謙虚な姿勢を堅持している必要がある。

理工学研究科（以下「本研究科」という。）では、キリスト教の精神に基づいた本学の行う教育基盤に立って人格を陶冶し、専門の学術の教授・訓練を通して精深な学識と研究能力を養うとともに、堅実な社会人として国際的にリーダーシップを発揮し、「地の塩、世の光」として文化の発展・創生に寄与し得る人物の養成を目的とする。

博士前期課程では、学部教育における人間形成のための幅広い教養並びに専門的教養基盤に立って、専攻分野における基礎力・応用力の充実はもちろんのこと、研究分野に関わる精深な学識と研究への真摯な姿勢と能力を養う。

博士後期課程では、前期課程での教育成果の上に、独創的研究を通して従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の発展・創生に寄与するとともに、専門分野におけるこれからの研究を先導し得る能力を養う。

### 学生に修得させるべき能力等の教育目標

博士前期課程では、質の高い専門科目及び社会への視野を広めるための専門科目に加えて実践的英語教育科目をバランスよく配置することにより、専門分野における深い知識と応用力ばかりでなく、国際的な場で研究を発表し討論する語学力と社会及び環境に対する広い視野や高い倫理観に基づく判断力とを同時に養成する。また、修士論文の研究指導を通して問題解決能力と問題発見能力を身につけさせることを目標とする。

### 体系的な教育の課程

これからの科学技術の発展を担う人材は、各分野における深い専門知識と他の専門分野の素養を併せ持ち、幅広い視野に立って研究を遂行し、応用力を発揮できる人物でなければならない。本研究科では、そのような特性を持った人材を育成すべく、従来の学問分野の壁を取り去り、1専攻8専修コースの構成にしている。授業科目においても、専攻共通科目として、科学技術英語、科学技術倫理、環境、福祉などの、視野の拡大と優れた人格形成に有用な科目を配置している。1専攻8専修コースの構成により、

- (1) 大学における卒業学科に関わらず、興味を持つコースに進学できる。
- (2) 理工学専攻の共通科目と専修コース科目及び他コース科目をバランスよく履修できる。
- (3) 従来の学問分野の壁を越えた協力体制のもとで最先端の研究を遂行できる。
- (4) 学際領域や新しい学問領域を研究対象にすることができる。



などの特色を持たせている。また、教育プログラムとして専門フロンティアプログラムと複合フロンティアプログラムの2種類を設け、専門フロンティアプログラムは高度な研究と応用を担う人材の育成を目的とし、複合フロンティアプログラムは科学技術を広い視野に立って正しく評価し、社会に発信できる人材の育成を目的とする。

本大学院は本学建学の精神に則り、研究科の課程の目的に応じ、高度かつ専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与する人物を養成することを目的とします。

### **教育研究環境の整備について**

(1) 現状の恵まれた施設・設備環境の活用に加え、学部附置機関である「機器分析センター」「先端技術研究開発センター」「先端情報技術研究センター」、大学附置機関である「総合研究開発機構」「情報メディアセンター」との緊密な連携を図る。

(2) 文部科学省等の省庁及び公的機関が公募する、教育・研究プロジェクト採択に向けて学部・研究科全体として取り組む。

(3) 研究領域の拡大と大学院教育の多様化を目的とした制度として、独立行政法人・私立等の研究所と協定に基づき連携して研究教育を行う連携大学院方式を整備している。北里大学医学部とは独自に研究協力協定を結んでいる。これら他研究機関との人的・物的交流について、その成果を総括するとともに、さらなる連携について検討し、幅広い研究・教育システムを確立していく。

(4) 教員個々の研究活動の充実を図るべく、自己点検・評価活動を充実させ、研究活動の公開と学部・専攻内の連携をさらに強化する。

#### **(1)コース制度**

理工学研究科は全体を1つの専攻（理工学専攻）とし、その中に8専修コースを設けています。専修コースの内容は以下のとおりです。

##### **① 基礎科学コース** :

自然科学の基礎である数理科学、理論物理学（物性、固体、宇宙など）、実験物理学（原子・分子、凝縮系、宇宙など）を中心とし、さらに数理生物学、複雑系、地震やレオロジー、量子多体系、量子制御、スピントロニクスなど新分野へも視野を広げています。これら専門分野の研究に携わることは自然科学の神髄に迫る醍醐味を味わうことでもあり、同時に、山積する多種多様で千姿万態な問題の中から本質的な課題を見つけ出し、モデルを構築してそれを解決する能力を養うことにも通じます。深い教養に裏打つけられた知性に富む、自立的、能動的、かつ直観力に優れた人材を涵養します。

##### **② 化学コース** :

物理化学、有機化学、無機化学の3分野で構成されています。分子および分子集合体を対象にして、化学本来の視点から研究を遂行し、幅広く深い化学的素養を身につけた人材を育成します。

③ 機能物質創成コース :

新機能を持つ物質の創成を中心に、物質設計やデバイス作製等の応用も視野に入れた総合的な研究を行うことを目的としています。物性物理学、固体化学、物質科学、薄膜工学、電気物性工学、表面科学等のいずれかを基礎におきつつ、分野を横断し幅広い知識に精通した、最先端の物質科学を行う人材を育成します。

④ 生命科学コース :

生命科学の急速な進歩は、新たな学問領域や産業領域を切り拓き、社会に対しても大きな影響を与えつつあります。生命科学コースでは、この広い領域の共通基盤となる知識を身に付け、生命現象を担う分子の構造、機能、およびその調節機構の研究を通して、自ら研究を進める能力の育成を目指しています。また、理工学専攻中の生命科学という特色を生かし、医薬品、食品などの既存分野だけでなく、生命科学領域をフロンティアとする新しい技術の開発にも貢献できる人材を育てたいと考えています。

⑤ 電気電子工学コース :

回路系から情報通信系、材料・物性系まで広い研究分野の研究室がそれぞれ大学院生を受け入れています。技術者、研究者を目指す者として、現代社会の基盤を支えるエネルギー分野、計測・制御分野、情報・通信分野、電子デバイス分野、材料・物性分野、またそれらの関連分野を対象に学習、研究を進めています。研究指導を重視し、それらを通して自ら考える能力、発見能力、問題解決能力の育成に努めます。技術者、研究者を目指す者として大学院で何を追究したいのか、目的意識をはっきりと持って進学してもらいたいと思います。

⑥ 機械創造コース :

本コースは、人類の持続的発展に役立ち、優れた機能を持つ機器やシステムを創造する研究者と技術者を養成します。すなわち、エネルギー・環境・安全・倫理に対する広い視野に立って、ものの形や機構と力学的作用を深く理解させる教育・研究を行います。さらに、機械に代表されるハードと知能に代表されるソフトとの融合を図り、進んだ情報処理能力、高度な計測技術と解析技術を修得させ、研究指導を通じて総合力を養い、自ら問題発掘と解決のできる学生を育てます。

⑦ 知能情報コース :

知能情報コースの教育と研究はヒューマンインタフェース、自然言語理解、ビッグデータ、コンピュータ・ビジョン、ロボティクス、ウェアラブルコンピューティング、ネットワーク技術とウェブ技術を含む計算機や情報に関連する幅広い分野を網羅している。新しい技術の創造と習得、並びに人間社会内のその技術の役割の理解を習得するのはコースの目的です。

⑧ マネジメントテクノロジーコース :

製品ライフサイクル、生産システム、サプライチェーン、経営技術、環境経営、品質経営などの現代社会が抱える問題領域について、データ分析技術、モデル化技術、最適化技術の観点に立ったそれらのマネジメントに必要な概念・方法論・システムの構築とその運用を学び、研究します。経営システム工学科のみならず他学科、他学部の卒業生

の受け入れを歓迎する方針です。

## (2)教育プログラム

理工学研究科では、各専門における深い知識、研究能力を持つ人材を育成する教育とあわせて、理工学分野の最先端の成果を正しく評価し、社会に発信できる人材を育成する教育をもめざしています。

そのために、博士前期課程の教育プログラムとして、**専門フロンティアプログラム**と**複合フロンティアプログラム**の2種類を設けています。

**専門フロンティアプログラム**は従来の博士前期課程で実践されてきたように、各専門分野での最先端の研究をおこない、それに基づいた修士論文を提出して修了することをめざす教育プログラムです。これは理工学の特定の学問領域について深く学び、その分野の第一線の研究および応用を担う人材を育成することをめざすものです。

**複合フロンティアプログラム**は複数コースの専門分野を広く学び、社会・文化と科学・技術のかかわりなど科学・技術に関する調査・分析をまとめた修士論文を提出し、博士前期課程を修了する教育プログラムです。つまり科学技術の成果に対する社会活動面からの評価、および科学・技術に対する社会経済活動からのニーズ等を評価できる人材の育成が目的です。修了後の進路としては、例えばシンクタンク、ジャーナリズム等への就職を想定しています。

## (3)コース兼任担当制度について

本学大学院理工学研究科の教員である者のうち、以下の①②の両方に該当する者は、コース兼任担当（コース兼任）の資格者です。本研究科教員は、入学試験合格者の希望に基づき、本研究科での資格審査で承認された場合、コース兼任担当者となることができます。入学を希望する専修コースと、希望する研究指導教員の所属専修コースが異なる場合は、出願時に希望する研究指導教員に必ず申し出てください。

- ①専門とする研究が、他コースの研究分野を跨ぐ、境界領域に発展している教員。
- ②分野を跨ぐ境界領域での研究を主題とする学生が、研究指導を希望している教員。

**博士前期課程に出願する者は、予め希望研究指導教員と面談し、その了解を得てどちらかの教育プログラムを選択しなければなりません。**

## 学 位

本大学院において授与する修士の学位は次のとおりです。

理工学研究科理工学専攻 博士前期課程 修士（理学）、修士（工学）または修士（学術）

## 募集人員

理工学専攻  
博士前期課程

基礎科学コース  
化学コース  
機能物質創成コース  
生命科学コース  
電気電子工学コース  
機械創造コース  
知能情報コース  
マネジメントテクノロジーコース

各コース若干名

(注3) すべてのコースは、「専門フロンティアプログラム」と「複合フロンティアプログラム」両方の研究指導教員で構成されています。

## 出願資格（研究指導を希望する教員から予め承認を受けた後、出願してください）

以下の1.～8.のいずれかに該当するもの。（注4）

1. 大学を卒業した者及び2019年3月卒業見込みの者
2. 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び2019年3月取得見込みの者
3. 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2019年3月修了見込みの者
4. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2019年3月修了見込みの者
5. 日本において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2019年3月修了見込みの者
6. 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2019年3月修了見込みの者
7. 文部科学大臣の指定した者
8. 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、**入学時に**22歳に達したもの

注意：上記4.～8.により出願を希望する者は、相模原事務部学務課に問い合わせのうえ、個別の入学資格審査に必要な書類を、下記の指定期日までに提出すること。

(注4) **本学理工学部**に在籍する全ての学生は、7月入試を受験できません。

## 出願資格審査

出願資格4.～8.のいずれかにより出願しようとする者は、出願書類を提出する前に出願資格認定のための審査を受ける必要があります。この場合、事前に相模原事務部学務課理工学研究科担当に連絡し、次の書類を提出してください。

出願資格審査申請期間： 2018年5月7日（月）まで。

提出書類： (1)入学志願票（本学所定用紙）

(2)最終学歴の成績証明書

(3)最終学歴の卒業証明書あるいは在籍証明書

(4)出願資格審査申請書（様式は任意）

学習歴・実務経験・研究歴等を記載し、資料を添付してください。

※・提出書類は必ず書留郵便とし、出願資格審査書類在中と朱書きしてください。

- ・(1)～(3)については、出願資格審査認定後、出願書類として取り扱いますので、出願時に再提出する必要はありません。

## 出願書類

1. 入学志願票及び受験票（本学所定用紙）

2. 成績証明書

3. 最終出身大学の卒業（見込）証明書（本学出身者は不要）

4. 写真1枚（脱帽上半身、背景なし、タテ4cm×ヨコ3cm、最近3ヵ月以内撮影

入学志願票の所定欄に貼付）

5. 入学検定料「収納証明書・振込通知書」貼付用紙

入学検定料の「収納証明書」<コンビニエンスストア・クレジット支払の場合>または「振込通知書(大学院提出用：金融機関の収納印の押されたもの)」<銀行振込の場合>を、収納証明書・振込通知書貼付用紙(本学所定用紙)に貼り付け提出してください。

\*入学検定料の支払い方法については、15ページを参照してください。

6. 外国籍の方は、以下の①②いずれかを提出してください。

①住民票（「在留資格」、「在留期間等」、「在留期間等の満了の日」、「在留カード等の番号」が記載されたもの）

②パスポートのコピー（氏名、国籍、在留資格の確認ができるページをコピー）

7. 研究計画書（複合フロンティアプログラム志願者のみ提出）

研究計画書は、以下の題目について各々1,000字程度（書式は自由）にまとめたもの。

A)これまでの勉学、または研究内容（卒業研究を行なっている場合はその内容を中心に）。

B)志望動機、複合フロンティアプログラムでの学習・研究についての計画。

※合格した場合、郵送で通知を希望する者は、その旨をA4用紙に記述し提出すること。

（書式は自由）

## 入学検定料

35,000円

1. 入学検定料は下記のいずれかの方法でお支払いください。

・コンビニエンスストアでの支払い

「コンビニ端末での入学検定料支払方法」を参照のうえ、コンビニエンスストアのレジで入学検定料をお支払いください。その際発行される「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取り、収納証明書・振込通知書貼付用紙（本学所定用紙）に貼り付け提出してください。

・クレジットカードでの支払い

「クレジットカードでの検定料支払方法」を参照のうえ、入学検定料をクレジットカードにてお支払いください。決済完了後に通知されるURLよりログインし、取扱明細書をプリントアウトのうえ、「収納証明書」部分を切り取り、収納証明書・振込通知書貼付用紙（本学所定用紙）に貼り付け提出してください。

・銀行窓口からの振り込み

該当の振込依頼書（本学所定用紙）を使用し、郵便局・ゆうちょ銀行以外の日本国内の金融機関窓口で入学検定料を振り込んでください。振り込んだ際に受け取った、振込通知書（大学院提出用）を、収納証明書・振込通知書貼付用紙（本学所定用紙）に貼付し、出願書類として提出してください。（ATM及びインターネットバンキング等は不可）。金額が訂正されたものや収納印がないものは無効です。なお、出願受付期間を過ぎてからは振り込みできません。また、窓口営業時間にご注意ください。

2. 出願受付後、入学検定料は返還いたしません。振り込んだが出願しなかった場合は、学務部教務課にて返金の手続きをしてください。

## 出願手続および期間

出願は窓口受付、または郵送受付とします。

[窓口受付]

2018年6月4日(月)～6月5日(火)9:00～17:00(11:30～12:30は除く)

出願者は、出願書類一式を相模原事務部学務課入学願書受付窓口(B棟1階 スチューデントセンター)に提出し、受験票の交付を受けてください。

[郵送受付]

2018年6月5日(火)消印有効です。これを過ぎた消印のものは受理せず返送します。

郵送の場合は、必ず書留郵便とし、出願書類一式を同封のうえ送付してください。受験票は、本人宛に返送します。ただし、受付事務・郵便事情等により返送が多少遅れることがあります。

[送付先]

青山学院大学 相模原事務部学務課

理工学研究科入学願書受付係宛

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1

TEL 042-759-6033(ダイヤル)

**※疾病・負傷や身体障害のために、受験及び修学上特別の配慮を必要とする者は、「受験特別措置申請書」を提出する必要があります。出願前に必ず学務課理工学研究科入学願書受付係までご連絡ください。**

## 入学試験日

2018年7月14日(土)

## 入学試験場

試験は、青山学院大学相模原キャンパスで実施します。

試験教室等の詳細は、試験当日にN棟1階の理工学研究科掲示板に掲示します。

## 試験科目および試験時間

入学試験の試験科目は、「小論文」および「口述試問」です。なお選考には、さらに「書類審査」が加わります。

### 7月14日(土)

小論文	:	10:00 ~ 11:00
口述試問	:	13:30 ~

## 合格発表

2018年7月20日(金) 13:00

相模原キャンパス N棟1階理工学研究科掲示板に掲示します。

## 入学手続

手続は郵送受付とします。

合格者は相模原キャンパス スチューデントセンター (B棟1階) の学務課で入学手続書類を受けとり、所定の期間内に次のものを郵送で提出して入学手続を完了してください。入学手続に関する詳細は、「入学手続要項」でご確認ください。

下記期間以外は理由の如何を問わず受け付けませんので、ご注意願います。

なお、期間中に手続きをしない者は入学を辞退したものと見なします。

### 第1次手続

入学手続締切日 : 2018年8月3日(金)までの消印有効

**【注意】** 郵送には本学所定の封筒を使用すること(書留・速達)。消印の日付が締切日を過ぎたものは受理せず、返送します。

提出書類 :

1. 誓約書・保証書(本学所定用紙)
2. 住民票または住民票記載事項証明書
3. 振込通知書(大学院提出用:銀行の収納印の押されたもの)(本学所定用紙)

### 第2次手続

入学手続締切日 : 2019年2月27日(水)までの消印有効

**【注意】** 郵送には本学所定の封筒を使用すること(書留・速達)。消印の日付が締切日を過ぎたものは受理せず、返送します。

提出書類 :

1. 学籍資料票(本学所定用紙)
2. 出身大学卒業証明書(本学卒業者は不要)
3. 学生証用写真1枚(タテ4cm×ヨコ3cm、台紙に貼付)
4. 振込通知書(大学院提出用:銀行の収納印の押されたもの)(本学所定用紙)



## 学費等納入額の内訳について(2019 年度参考掲載)

2019 年度学費等は現在未定のため、改定された場合は改定後の金額となります。

学費等納入額内訳 (2018 年度参考)

費目	金額	備考
学 費	入学金 ※ 290,000円	入学時のみ(ただし本学出身者は0円)
	授業料	333,000円 年額666,000円
	在籍基本料	40,000円 年額80,000円
	施設設備料	50,000円 年額100,000円
	教育活動料	40,000円 年額80,000円
	小計	753,000円 (ただし本学出身者は463,000円)
諸 会 費	後援会費	2,500円 年額5,000円
	◎ 校友会費	30,000円 入学時のみ(ただし本学出身者は0円)
	理工学会費	2,000円 年額4,000円
	小計	34,500円
入学時納入金合計	787,500円	(ただし本学出身者は467,500円)
初年度納入金合計	1,255,000円	

◎印の校友会費については、退学、除籍時に申請により、校友会本部事務局（校友センター）において全額の返還をうけることができます。

### 備 考

1. 第1次入学手続・第2次入学手続の納入金額について

**第1次入学手続時 納入金額**     290,000円（※印の入学金のみ）  
（ただし本学出身者は0円）

**第2次入学手続時 納入金額**     497,500円（入学時納入金額より第1次納入金額を除いた額）  
（ただし本学出身者は467,500円）

後期分授業料は、入学後、後期に納入してください。なお、第2次入学手続時に後期授業料を併せて納入することもできます。

2. 学費等の改定について

今後、経済情勢に応じ学費等の改定が行なわれた場合は、在学生にも改定後の学費等を適用することがあります。

3. 「入学辞退願」提出について

本大学院の第2次入学手続を完了した後、やむを得ぬ事情により入学辞退することになった場合、「入学辞退願」が2019年3月31日16:00までに受理されたものは、入学金を除く納入金を返還いたします。詳しくは、合格発表時にお渡しする「入学手続要項」をご覧ください。

## 一般的注意事項

1. 一旦受け付けた書類、入学検定料は一切返還しません。
2. 受験票が試験当日までに未着の場合および紛失した場合は、相模原事務部学務課窓口（B棟1階 スチューデントセンター）で受験票を再発行しますので身分証明書等を持参してください。なお、受験中は常に受験票を机の上に置いてください。
3. 受験者は試験当日、N棟1階の理工学研究科掲示板で受験教室や伝達事項を必ず確認してください。
4. 試験開始10分前までに試験場に入室してください。筆記試験については、自分の受験番号ラベルが貼付された机に着席してください。
5. 試験開始から20分以上遅刻した者は、当該試験科目以降全ての受験資格を失います。
6. 課された試験のすべてを受験する必要があります。なお、一科目でも欠席した者は、不合格とします。また、各科目の終了時間までは退室を認めません。
7. 携帯電話等の電子機器類は試験場内では使用を禁止します。時計としての使用も禁止します。一般的な時刻表示以外の機能を持つ時計も使用できません。  
ただし、この「大学院学生募集要項」に使用許可されるものの記載がある場合に限り、限定的に許可されます。
8. 問い合わせ先は、内容により次のとおりです。ただし、可否に関しては一切応じられません。

相模原事務部学務課 理工学研究科担当

T E L 042-759-6033 (ダイヤル)

9. 出願資格1に該当するもののうち「学士の学位を2019年3月までに取得見込の者」で合格し、入学手続を完了していても、2019年3月までに学士の学位を授与されない場合は、入学を許可しません。

## 連携大学院方式について

連携大学院方式とは、青山学院大学大学院理工学研究科（以下「大学院」という。）が国立・私立等の研究所等（以下「研究所」という。）と協定に基づき連携をして、研究所の研究者を本学の客員教授または客員准教授（以下「客員教員」という。）として委嘱し、大学理工学研究科の学生（以下「大学院学生」という。）は最新の設備と機能を有する研究所において、それらの客員教員から修士論文および博士論文の研究指導等を受け、大学院の研究領域の拡大はもとより新たな学問領域の確立を図り、大学院教育を多様化することを目的とした制度です。

### 客員教員（指導教員）

本学大学院において必要とみとめられる研究分野について、研究所の研究員を客員教員として委嘱します。

### 大学担当教員（副指導教員）

本大学院の専任教員がこれにあたり、客員教員に協力して、大学院学生の研究指導等について補完的役割を担います。

### 大学院学生

本学大学院に在籍し、課程修了に必要な単位は本学で修得する。研究指導は原則として研究所において客員教員から受けることとなります。

### <2018年度連携大学院方式に伴う受入先>

独立行政法人 宇宙航空研究開発機構

独立行政法人 産業技術総合研究所

（注5）連携大学院方式による指導教員を希望する場合は、必ず出願前に該当する大学担当教員にお問い合わせください。なお、連携大学院方式による客員教員については、2018年度の教員組織を参考に記載しております。

# 教 員 組 織

大学院理工学研究科

研究科長 長 秀雄

理工学専攻

専攻教務主任 鈴木 正

教務主任（基礎科学コース）

教務主任（化学コース）

教務主任（機能物質創成コース）

教務主任（生命科学コース）

教務主任（電気電子工学コース）

教務主任（機械創造コース）

教務主任（知能情報コース）

教務主任（マネジメントテクノロジーコース）

山崎 了

坂本 章

長谷川 美貴

北野 晴久

阿部 文快

松谷 康之

熊野 寛之

Dürst, Martin J.

熊谷 敏

# 1. 博士前期課程

## 理工学専攻

(☆印の付された研究指導教員は、「専門フロンティアプログラム」と「複合フロンティアプログラム」の両方担当しますが、その他は「専門フロンティアプログラム」のみの担当です。)

### 基礎科学コース

	研究指導教員	専門分野
教授	杉原正 顯	数値解析
	竹内康 博	数理モデリング、生物数学
	☆谷口健 二	表現論、球関数
	中山裕 道	位相幾何学、力学系、微分位相幾何学
	西山 享	表現論、調和解析、離散数学
	前田はるか	原子物理学実験、量子制御、極低温リユードベリ原子・プラズマ
	☆増田 哲	非線形可積分系
	☆松川 宏	摩擦の物理
	松本裕 行	確率論、微分方程式論
	山崎 了	宇宙物理学、高エネルギー天文学
	☆吉田篤 正	宇宙物理学、トランジェント天体
准教授	市原直 幸	確率論、偏微分方程式論
	坂上貴 洋	ソフトマター物理学
	坂本貴 紀	高エネルギー・重力波天文学、重力波源の電磁波対応天体の探査・高エネルギー突発天体の観測的研究
客員教授 (連携大学院方式)	吉田 哲 也	気球工学、宇宙粒子物理学、素粒子物理学実験 (大学担当教員は吉田 篤正教授)
コース兼担教授	☆古川信 夫	物性理論、新規機能性物質の材料設計
	富重道 雄	生物物理学、一分子計測、生体分子機械
	担 当 教 員	担 当 科 目

教授	杉原正 顯	計算数学特論、離散数学
	竹内康 博	非線形数理、力学系
	谷口健 二	スペクトル理論、リー群論
	中山裕 道	位相幾何学、力学系
	西山 享	表現論、組合せ論
	前田はるか	量子力学特論
	増田 哲	関数方程式、非線形数理
	松川 宏	場の理論
	松本裕 行	確率過程論、関数方程式論
	山崎 了	一般相対論、宇宙物理特論B
	吉田篤 正	宇宙物理特論A、データ解析特論
准教授	市原直 幸	確率過程論、応用数学特論
	坂上貴 洋	統計物理学特論 A、B
	坂本貴 紀	宇宙物理特論 C、宇宙放射線特論
	研究指導教員共通	物理科学特別輪講(A~D)、数理科学特別輪講(A~D)、理工学特別実験・演習(A~D)

### 化学コース

	研究指導教員	専門分野
教授	阿部二 朗	量子化学、物性化学、機能物質化学
	坂本章	物理化学、分子分光、構造化学
	杉村秀 幸	天然物合成化学、生体機能分子の設計と合成
	鈴木 正	物理化学、レーザー光化学
	武内 亮	有機化学、有機合成化学、有機金属化学
	☆長谷川美 貴	錯体化学、ランタニド錯体の光化学
准教授	☆中田恭 子	理論化学、固体物性理論、ナノ炭素材料

担当教員				担当科目
教 授	阿 部 二 朗	量子化学特論		
	坂 本 章	構造化学特論		
	杉 村 秀 幸	天然物化学特論		
	鈴 木 正	光化学特論		
	武 内 亮	有機化学特論		
准 教 授	長谷川 美 貴	錯体の材料科学特論		
	中 田 恭 子	ナノ炭素材料の理論		
	研究指導教員共通	化学特別輪講（A～D）、理工学特別実験・演習（A～D）		

### 機能物質創成コース

研究指導教員				専 門 分 野
教 授	北 野 晴 久	物性物理学、超伝導と電荷秩序、マイクロ波物性		
	澤 邊 厚 仁	固体電子物性、電子薄膜材料の合成と解析		
	重 里 有 三	固体化学、高度な機能を有する無機薄膜材料の創成		
	下 山 淳 一	固体欠陥化学、新機能材料創成、新超伝導物質開発		
	☆古 川 信 夫	物性理論、新規機能性物質の材料設計		
准 教 授	☆三 井 敏 之	表面科学、生物物理学		
	春 山 純 志	メゾスコピック系の物理学、量子ナノデバイスの開発		
客員教授 (連携大学院方式)	竹 歳 尚 之	ナノ薄膜・界面の熱物性、薄膜・微小領域熱物性計測技術の開発 (大学担当教員は重里 有三教授)		
客員准教授 (連携大学院方式)	八 木 貴 志	固体物理学、熱物性解析 (大学担当教員は重里 有三教授)		
	山 下 雄 一 郎	材料科学、固体物理学、材料データベース (大学担当教員は重里 有三教授)		

担当教員				担当科目
教 授	北 野 晴 久	固体物理学特論 I		
	澤 邊 厚 仁	無機材料特論、電子物性特論		
	重 里 有 三	無機薄膜工学特論		
	下 山 淳 一	固体物理学特論 II		
	古 川 信 夫	基礎固体電子特論 I・II		
准 教 授	三 井 敏 之	表面と表面計測		
	春 山 純 志	ナノサイエンス特論		
	研究指導教員共通	機能性物質の基礎と応用、物質科学特別輪講(A～D)、物質工学特別輪講(A～D)、理工学特別実験・演習(A～D)		

### 生命科学コース

研究指導教員				専 門 分 野
教 授	☆阿 部 文 快	分子生物学、生化学、生物物理学、圧力生理学、分子遺伝学		
	☆諏 訪 牧 子	バイオインフォマティクス、計算生物学、生物物理学、ゲノム情報学、生命情報に基づくタンパク質の構造・機能予測		
	☆田 邊 一 仁	生体分析化学、分子イメージング、生物有機化学、核酸化学		
	富 重 道 雄	生物物理学、一分子計測、生体分子機械		
	☆平 田 普 三	生化学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、生理学、脳科学、疾患、老化		
コース兼任教授	☆宮 野 雅 司	脂質構造生物、応用の基盤となる構造生物学、水とタンパク質の構造科学		
	☆三 井 敏 之	表面科学、生物物理学		

担当教員				担当科目
教 授	阿 部 文 快	最先端生命科学入門、微生物分子生物学、生命科学研究法B、科学技術論理		
	諏 訪 牧 子	ゲノム情報科学、バイオインフォマティクス特論、生命科学研究法A		
	田 邊 一 仁	生体機能分析、生命機能化学、生命科学研究法A		
	富 重 道 雄	生体分子イメージング、生体分子機械論、生命科学研究法A		
	平 田 普 三	生化学・分子生物学概論、細胞生物学、神経科学、生命科学研究法A		
	宮 野 雅 司	タンパク質科学特論、構造生化学、生命科学研究法B		
	研究指導教員共通	生命科学特別輪講(A～D)、理工学特別実験・演習(A～D)		

## 電気電子工学コース

研究指導教員			専 門 分 野
教 授	黄 晋 二	創	電子デバイス工学、結晶成長
	地 主 昭	雄	情報・通信理論
	野 澤 昭	雄	生体計測工学
	橋 本 修		生体・環境電磁工学、マイクロ波・ミリ波計測工学
	林 洋 一		パワーエレクトロニクス
	松 谷 康 之		アナログ・デジタル回路、集積回路
准 教 授	☆米 山 淳		制御工学、システム理論
	外 林 秀 之		光ネットワーク、光センシング
	洲 真 悟		結晶工学、光電子物性
担 当 教 員			担 当 科 目
教 授	黄 晋 二	創	半導体工学特論、電子物性・材料特論 I
	地 主 昭	雄	情報工学特論、電子通信特論
	野 澤 昭	雄	福祉工学、生体電子工学特論
	橋 本 修		マイクロ波・ミリ波計測特論、環境電磁工学特論
	林 洋 一		パワーエレクトロニクス特論、モータードライブ特論
	松 谷 康 之		電子回路特論、アナログデジタル回路特論
准 教 授	米 山 淳		電子制御特論、インテリジェント制御システム
	外 林 秀 之		信号処理特論、スイッチング回路特論
	洲 真 悟		電子物性工学特論、電子物性・材料特論 II、製品安全と社会制度
研究指導教員共通			電気電子工学特別輪講 (A～D)、理工学特別実験・演習 (A～D)

## 機械創造コース

研究指導教員			専 門 分 野	
教 授	大 石 進		精密工学、精密加工、工作機械、加工計測	
	☆小 川 武 史		材料強度学、疲労強度・破壊抵抗評価	
	☆熊 野 寛 之		熱・環境工学、伝熱工学、蓄熱技術	
	☆長 秀 雄		材料科学、超音波計測、非破壊評価	
	☆麓 耕 二		熱流体工学、エネルギー変換工学、生体熱工学	
	☆横 田 和 彦		航空宇宙原動機学、数値・実験・理論流体力学、ターボ機械学	
	☆米 山 聡		材料力学、実験力学	
	☆渡 邊 昌 宏		流体関連振動、流体構造連成力学、振動工学	
	准 教 授	☆菅 原 佳 城		機械力学、制御工学、航空宇宙工学、ロボット工学
	客員教授 (連携大学院方式)	德 川 直 子		流体力学 (大学担当教員は横田 和彦教授)
熊 澤 寿			構造力学、材料力学、航空宇宙工学 (大学担当教員は小川 武史教授)	
後 藤 健			宇宙構造、材料工学、複合材料工学 (大学担当教員は米山 聡教授)	
客員准教授 (連携大学院方式)	森 治		宇宙機システム、宇宙機の動力学・制御 (大学担当教員は菅原 佳城准教授)	
担 当 教 員			担 当 科 目	
教 授	大 石 進		工作機械特論	
	小 川 武 史		材料工学特論	
	熊 野 寛 之		伝熱工学特論	
	長 秀 雄		超音波・レーザー計測特論	
	麓 耕 二		輸送現象特論	
	横 田 和 彦		流体力学特論	
准 教 授	米 山 聡		材料力学特論	
	渡 邊 昌 宏		機械力学特論	
	菅 原 佳 城		機械制御特論	
	研究指導教員共通		機械創造特別輪講 (A～Dいずれか)、理工学特別実験・演習 (A～D)	

## 知能情報コース

研究指導教員		専門分野
教授	☆Dürst, Martin J.	ワールドワイドウェブ、ソフトウェアの国際化、ソフトウェア科学
	☆大原 剛 三	発見科学、データマイニング、機械学習、社会ネットワーク分析
	☆小宮山 撰	ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティ、音響学
	☆佐久田 博 司	モデルによる教育システム (Model Based Learning System)、応用設計情報システム
	☆鷺 見 和 彦	パターン認識 (画像認識・画像理解・コンピュータビジョン)、セキュリティ (映像セキュリティ・生体個人認証)
	☆戸 辺 義 人	情報通信工学、実世界コンピューティング
	中 園 嘉 巳	生体情報学、神経生理学
	☆原 田 実	自然言語処理、意味解析、自動要約、質問応答、テキストマイニング、自動プログラミング、対話ロボット
	☆山 口 博 明	ロボット工学、制御工学、メカトロニクス
准教授	☆Lopez, Guillaume F.	ウェアラブルコンピューティング、人間情報学
担当教員		担当科目
教授	Dürst, Martin J.	ワールドワイドウェブ特論、ソフトウェア特論
	大原 剛 三	発見科学特論、データサイエンス特論
	小宮山 撰	ヒューマンインタフェース特論、バーチャルリアリティ特論
	佐久田 博 司	設計情報工学特論、情報発信スキル特論
	鷺 見 和 彦	先端コンピューティング特論、情報セキュリティ特論
	戸 辺 義 人	インターネット特論、無線通信システム特論
	中 園 嘉 巳	生体運動学、身体性知能論
	原 田 実	人工知能特論、知能ソフトウェア科学特論
	山 口 博 明	非線形制御、ロボット工学特論
准教授	Lopez, Guillaume F.	スマートメディア特論、ウェアラブルメディア特論
	研究指導教員共通	知能情報特別輪講 (A~D)、理工学特別実験・演習 (A~D)

## マネジメントテクノロジーコース

研究指導教員		専門分野
教授	☆石 津 昌 平	品質情報システム、評価構造、品質管理技術、経営品質評価、品質管理教育
	☆大 内 紀 知	イノベーション・マネジメント、技術経営学、データ分析
	☆小野田 崇	統計的機械学習、設備診断・サイバーセキュリティ、人工知能、ビッグデータ解析
	☆熊 谷 敏	経営工学、経営管理システム
	☆宋 少 秋	組合せ最適化、ゲーム理論、オペレーションズ・リサーチ
	☆松 本 俊 之	インダストリアル・エンジニアリング、改善技術、生産情報システム、環境教育・経営
	☆水 山 元	生産システム工学、生産管理、集合知
准教授	☆栗 原 陽 介	システム工学、情報工学、計測工学
担当教員		担当科目
教授	石 津 昌 平	品質情報システム特論 I・II
	大 内 紀 知	意思決定特論 I・II
	小野田 崇	統計的機械学習特論 I・II
	熊 谷 敏	経営管理システム特論 I・II
	宋 少 秋	数理計画特論 I・II
	松 本 俊 之	カイゼンマネジメント特論 I・II
	水 山 元	協働システム特論 I・II
准教授	栗 原 陽 介	システム工学特論 I・II
	研究指導教員共通	マネジメントテクノロジー特別輪講 (A~D)、理工学特別実験・演習 (A~D)



担当教員	担当科目
兼担教授	Lenz, Karl F. 知的財産
	PAGEL, James W. 科学技術英語 I・II
	REEDY, David W. 科学技術英語 I (海外研修)
	菊池 純一 知的財産、製品安全と社会制度
	EVANS, David R. 科学技術英語 I
兼担准教授	ROBERTSON, Charles E. 科学技術英語 I
講師	NELSON, Forrest M. 科学技術英語 I
	TAYLOR, Todd D. バイオテクノロジー特論
	WOLFF, Gary J. 科学技術英語 I
	浅見 真年 総合化学特論 I
	石田 知子 科学・技術と社会
	石崎 泰樹 生命科学特論 A
	石津谷 徹 総合化学特論 I
	伊藤 武彦 バイオテクノロジー特論
	荻野 拓 物質科学特論
	生出 佳 実用 CAE アプリケーション特論
	奥津 哲夫 総合化学特論 II
	尾山 卓司 無機化学特論
	梶原 康宏 バイオテクノロジー特論
	印牧 直文 ハイテクビジネス特論
	上山 智 電気電子工学特論 II
	北川 和裕 センシングベンチャービジネス
	吉川 直孝 リスクベース安全工学
	君島 正幸 電気電子工学特論 I
	木元 克典 生命科学特論 A
	久保 貴哉 総合化学特論 II
	今間 俊博 マルチメディア工学特論
	齋藤 剛 リスクベース安全工学
	佐々木 哲也 リスクベース安全工学
	佐藤 英一 宇宙構造材料工学特論
	島田 行恭 リスクベース安全工学
	杉西 優一 経営工学特論
	杉原 稔 生命科学特論 B
	須藤 靖 物理科学特論 I
	関口 敦 総合化学特論 I、フォトリックデバイス特論
	高橋 ゆかり 環境科学
	田中 利一 経営工学特論
	田邊 資明 総合化学特論 II
	津田 照久 組合せ論
	土屋 憲彦 結晶化学特論
	坪井 俊 数理科学特論 I
	手嶋 政廣 物理科学特論 I
	寺田 至 代数学特論
	時弘 哲治 解析学特論
	所 健一 経営工学特論
	中川 淳子 知的財産
	根岸 隆之 生命科学特論 B
	野中 正之 エネルギーシステム特論
	服部 仁志 トライボロジーと先端設計技術

藤	井	紀	輔	経営工学特論
本	田	善	央	電気電子工学特論Ⅱ
増	井		徹	科学技術倫理
松	井	正	一	マネジメントにおける数理工学Ⅱ
丸	橋	広	和	幾何学特論
三	浦	範	大	製品安全と社会制度
三	浦	吉	孝	経営工学特論
森	田	英	利	バイオテクノロジー特論
山	下		淳	画像処理特論
吉	野	弦	太	科学技術倫理

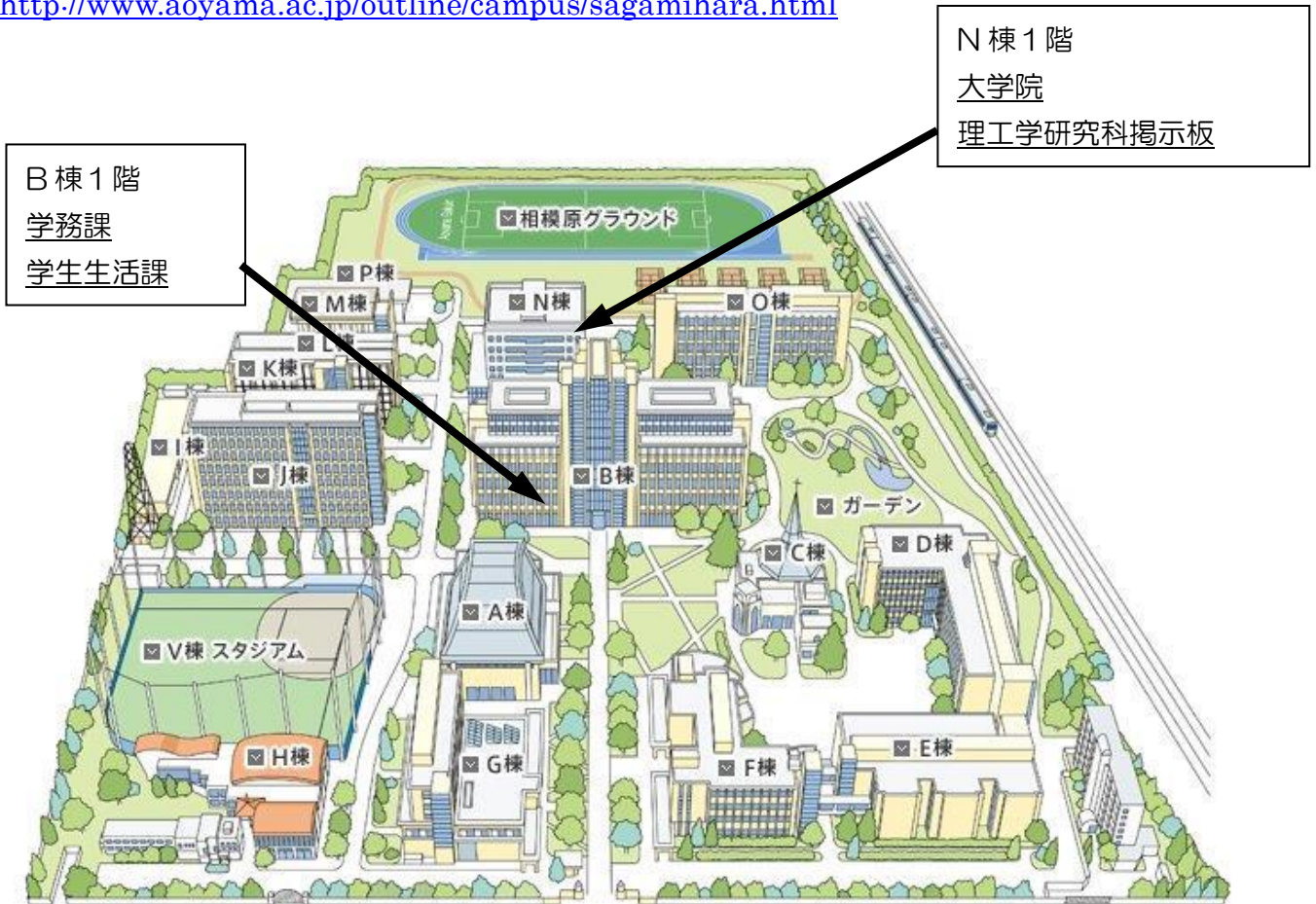
#### コース兼任担当制度について

本学大学院理工学研究科の教員である者のうち、以下の①②の両方に該当する者は、コース兼任担当（コース兼任）の資格者です。本研究科教員は、入学試験合格者の希望に基づき、本研究科での資格審査で承認された場合、コース兼任担当者となることができます。入学を希望する専修コースと、希望する研究指導教員の所属専修コースが異なる場合は、出願時に希望する研究指導教員に必ず申し出てください。

- ① 専門とする研究が、他コースの研究分野を跨ぐ、境界領域に発展している教員。
- ② 分野を跨ぐ境界領域での研究を主題とする学生が、研究指導を希望している教員。

相模原キャンパス建物配置図

<http://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/sagamihara.html>



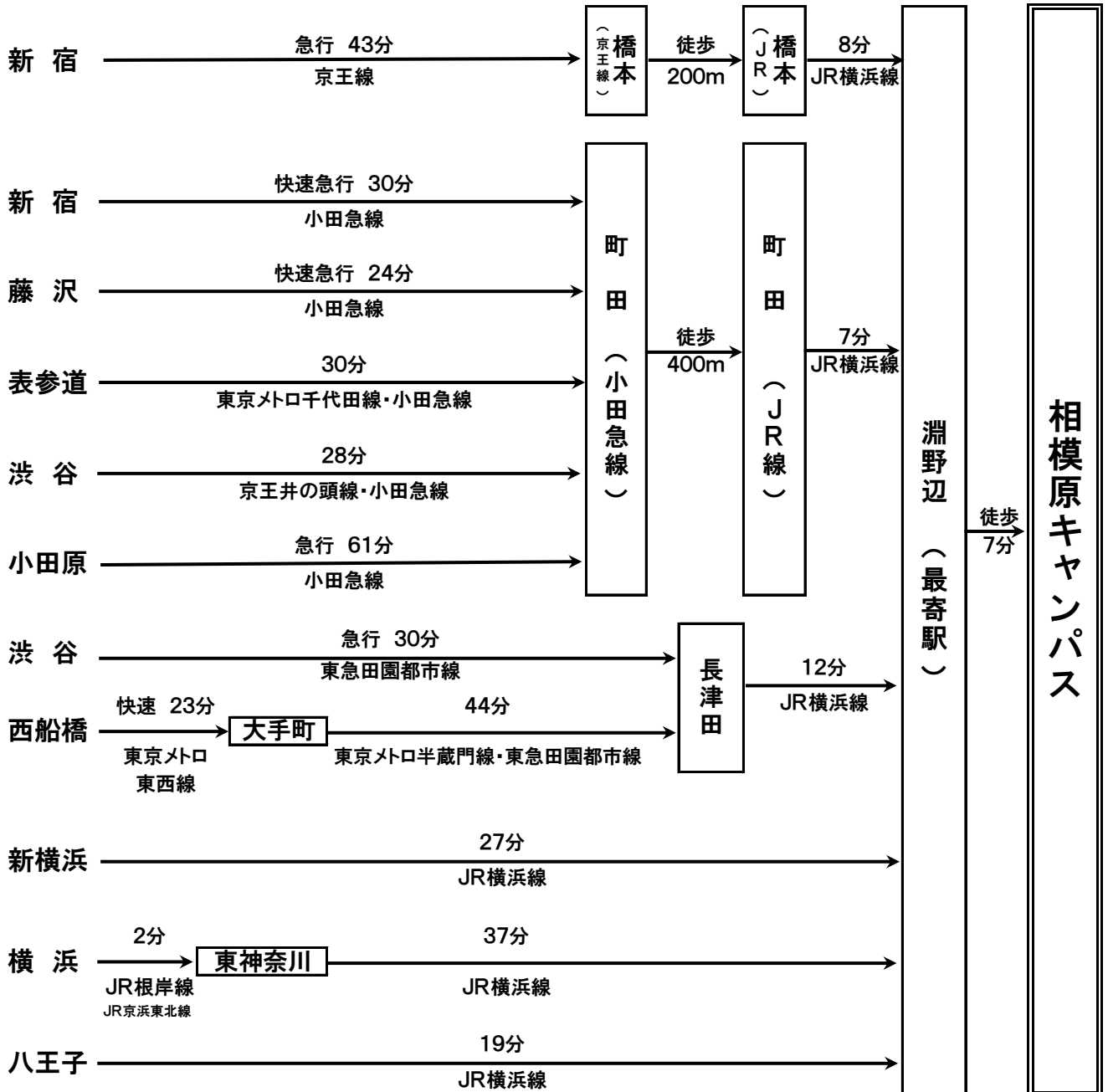
正門

- A棟 アリーナ    ■ B棟 メディアセンター    ■ C棟 ウェスレー・チャペル    ■ D棟    ■ E棟
- F棟    ■ G棟    ■ H棟 健康管理施設    ■ I棟 大型実験施設    ■ J棟 理工学部
- K棟 先端技術研究開発センター(CAT)    ■ L棟 理工学部    ■ M棟    ■ N棟    ■ O棟
- P棟 屋内練習場    ■ V棟 スタジアム    ■ ガーデン    ■ 相模原グラウンド

# 交通関係について

## 交通アクセス・所要時間

(パソコンソフト「駅すばあと」より。所要時間に乗換え時間は含まれていません。)



\* 淵野辺駅は各駅停車駅です。特急、快速を停車しません。

**[京王線を利用する場合]** 京王相模原線橋本駅からJR横浜線橋本駅までは約200mです。また、朝夕の通勤・通学時間帯は混雑しますので、乗り換えに時間がかかることを考慮に入れてください。

**[JR横浜線を利用する場合]** 各駅停車の多くは、東神奈川駅が始発となっています。横浜駅発着の各駅停車は少ないので、横浜駅を利用する方は注意してください。

**[小田急線を利用する場合]** 小田急線町田駅までは約400mです。また、朝夕の通勤・通学時間帯は混雑しますので、乗り換えに時間がかかることを考慮に入れてください。

# コンビニ端末での入学検定料支払方法

下記のコンビニ端末にてお支払いください

## 1 お申込み

**セブン-イレブン**  
マルチコピー機

<http://www.sej.co.jp>

最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。

TOP画面の「**学び・教育**」よりお申込みください。

学び・教育  
↓  
入学検定料等支払

**LAWSON**  
Loppi

**MINISTOP**  
Loppi

<http://www.lawson.co.jp> <http://www.ministop.co.jp>

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。

TOP画面の「**各種サービスメニュー**」よりお申込みください。

「各種申込(学び)」を含むボタン  
↓  
学び・教育・各種検定試験  
↓  
大学・短大・専門、小・中・高校等お支払い

あなたも、コンビニに、  
**FamilyMart** **Famiポート**

<http://www.family.co.jp>

最寄りの「ファミリーマート」にある「Famiポート」へ。

TOP画面の「**申込・請求(学び・教育)**」よりお申込みください。

申込・請求  
↓  
学び・教育  
↓  
各種(入学検定料等)お支払いサービス

**Kstation**

<http://www.circleksunkus.jp>

最寄りの「サークルK・サンクス」にある「Kステーション」へ。

TOP画面の「**学び・申込**」よりお申込みください。

「学び・申込」  
↓  
各種(入学検定料等)のお支払い

お申込みの大学 をタッチし、申込情報を入力して「**払込票 / 申込券 / 受付票**」を発券ください。

\*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

## 2 お支払い

①コンビニの**レジ**でお支払いください。  
端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi, Famiポート)または「受付票」(Kステーション)が出力されますので、**30分以内にレジにてお支払い**ください。

②お支払い後、**チケットとレシート**の2種類をお受け取りください。  
「取扱明細書」(マルチコピー機、Kステーション)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi, Famiポート)。

チケット形式  
取扱明細書兼領収書 + レシート

払込手数料	入学検定料が5万円未満	432円
	入学検定料が5万円以上	648円

\*お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。  
\*お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。  
\*すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

## 3 出願

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「**収納証明書**」部分を切り取り、**入試要項**などの指示に従って郵送してください。

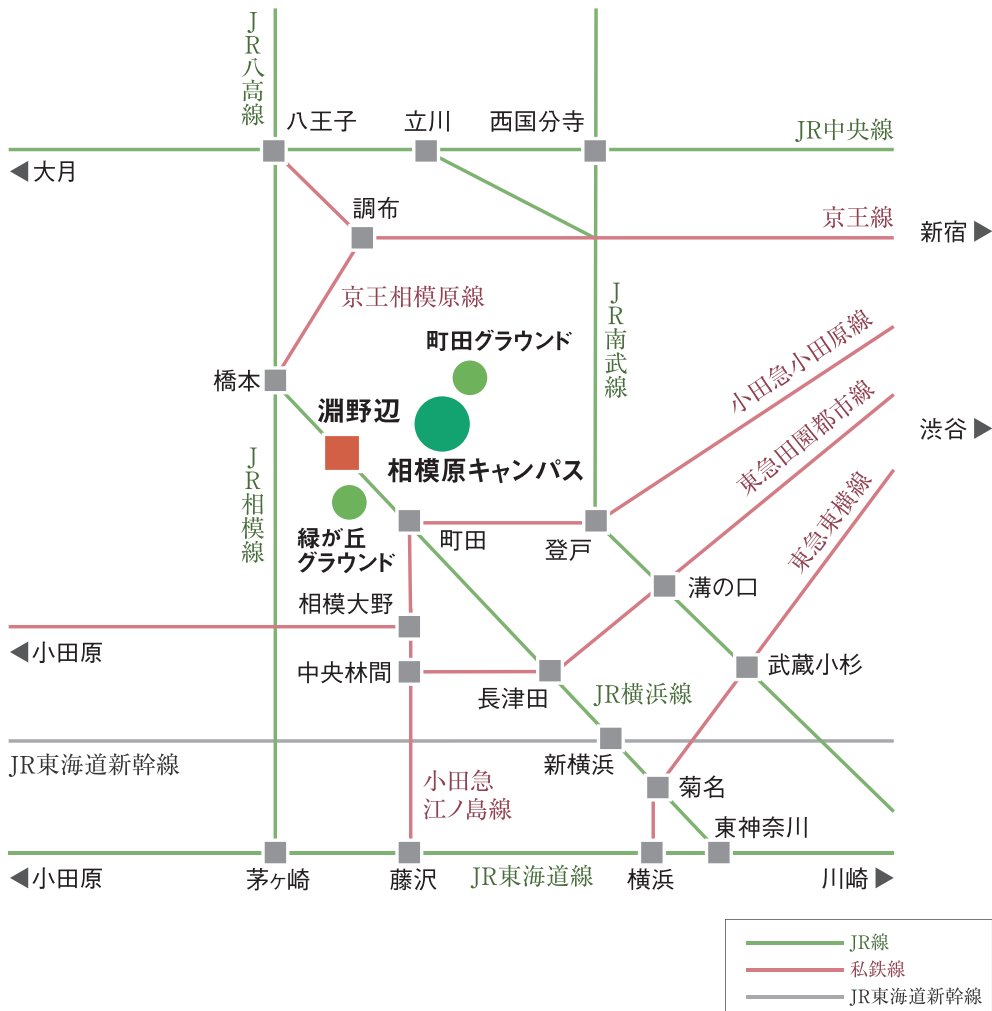
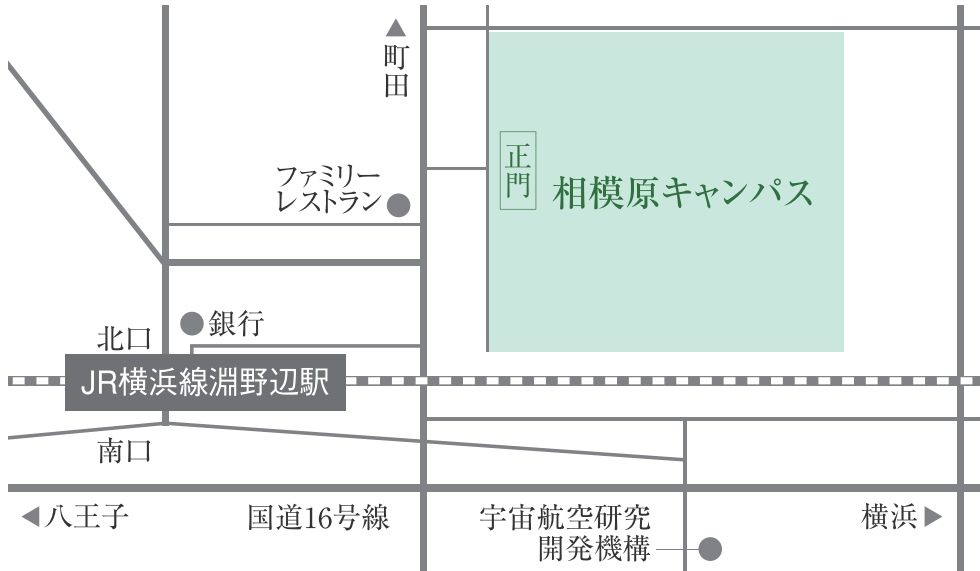
貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある欄は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。

【操作などのお問い合わせ先】 学び・教育サポートセンター <https://e-apply.jp/> ※コンビニ店頭ではお答えできません。

# 相模原キャンパス

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1

JR横浜線「淵野辺駅」より徒歩7分





# クレジットカードでの検定料支払方法

24時間・365日いつでも支払いOK!

クレジットカードを利用して検定料のお支払いが可能です。  



PCで下記にアクセス

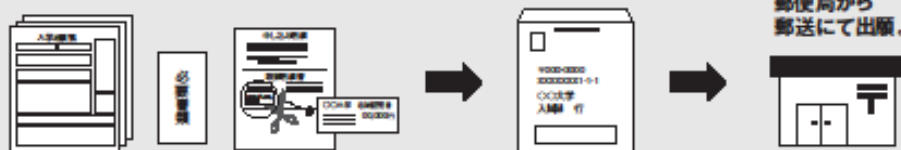
<http://e-apply.jp/e/gs-aoyama>

インターネット申込  
クレジットカード決済

1. トップページ	「申し込む」ボタンをクリック
2. 研究科選択	研究科を選択してください。
3. 入試選択	受験される入試を選択して「次へ」ボタンをクリック
4. 留意事項	留意事項の内容を確認・同意して「次へ」ボタンをクリック
5. 基本情報入力	申込者本人の基本情報を入力し「個人情報取扱方法」に同意し「次へ」ボタンをクリック
6. 申込内容確認	申込された情報を確認し、問題なければ「申し込む」ボタンをクリック
7. 受付番号確認	受付番号(12桁)を控え、「次へ」ボタンをクリック (登録されたメールアドレスにも通知されます。)
8. クレジットカード情報入力	支払に利用するクレジットカード番号(16桁)等必要な情報を入力し、「クレジットカードにて支払う」をクリック <small>*お支払いされるカードの名義人は申込者本人以外でも構いません。</small>
9. 決済完了	完了後に通知されるメールアドレスに記載のURLよりログインいただき、取扱明細書をプリントアウトしてください。 <small>*メール通知が届かない場合は、TOPページの「申込内容を確認する」ボタンをクリックし、「受付番号(12桁)」「登録時のメールアドレス」「生年月日」でログインしてください。</small>

出願

印刷した「収納証明書」と必要書類を、出願用封筒に入れる。



## 【注意事項・よくあるお問合せ】

- 出願期間を入試要項でご確認のうえ、出願に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- 支払最終日は23:59までにカード決済を完了させてください。
- 検定料の他に、払込手数料が別途かかります。  
払込手数料(30,000円未満→手数料 490円、30,000円以上50,000円未満→手数料 860円、50,000円→手数料 980円)
- クレジットカードの名義人は、申込者本人以外でも構いません。但し、基本情報入力画面では、必ず申込者本人の情報を入力してください。
- メール通知が届かない場合は、TOPページの「申込内容を確認する」ボタンをクリックし、「受付番号(12桁)」「登録時のメールアドレス」「生年月日」でログインしてください。
- 一度お支払された検定料は、出願後は一切返金できませんのでご注意ください。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。

「クレジットカードでの検定料納入」について不明点がある場合は、トップページの「はじめに」から「お問い合わせ先」をご閲覧頂き、「学び・教育サポートセンター」までお問い合わせください。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクール・モットー

青山学院大学大学院理工学研究科

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1

電話 042-759-6033 (相模原事務部学務課)